

## 『家族の漆かぶれと食物アレルギーにホメオパシーで対応したケース』



### ガルブレイス奈央

JPHF認定インナーチャイルドセラピストNo.533

JPHMA認定ホメオパス No.1109

ZENメソッド修得認定No.0545

CHhom10期生

1



## 自己紹介

- **NAO GALBRAITH, MS, RD/LD, IBCLC**
- Natural & Origin Wellness, LLC.
- 愛知県出身・アメリカ合衆国オクラホマ州在住
- 管理栄養士(米国免許)・国際認定母乳育児コンサルタントとして、州の保健機関にフルタイムで勤務
- オクラホマ日米協会主催の日本語教室講師
- 家族：夫、長男(16才)、次男(11才)



© JPHMA & NAO GALBRAITH

2

2



① 漆かぶれ



② 食物アレルギー

3



## ケース① 30代(当時)男性・夫 主訴：漆かぶれ

■数年前の秋から冬頃、夫が電気工事の仕事で、電柱の周りを掘ったり、手作業で草抜きをしている時にアメリカツタウルシに触れてしまったようで、左腕の内側の小さなぽつぽつと痒みが始まる。

© JPHMA &amp; NAO GALBRAITH

4

4



## アメリカツタウルシ ポイズン・アイビー

- 北米に広く分布し、触ると肌がかぶれて痒くなることが知られている。
- 葉は3枚一組で生える。
- 通常、春は緑で秋は赤みのあるオレンジ色。
- 触れてしまったら、台所用洗剤の原液で樹脂を浮かせた後、水でよく洗い流す。



© JPHMA &amp; NAO GALBRAITH

5

5



Rhus-t.30C  
Sulf.30C  
Ars.30C  
Apis.30C  
Calen.30C

Anac.200C



## レメディ選択と経過①

36キットからRHUS-T.、ANAC.、SULF.、を粒と水ポーション、またARS.、APIS.、CALEN.、を粒でとってもらおう。漆かぶれには、ウルシ科の植物から作られたレメディ達、そして痒みの軽減のためのレメディも選んで処方した。レメディをとり始めて数日後には前腕部の内側全体にかぶれが広がって浸出液が流れ出る。レメディを取りつつ、患部を包帯などで覆い出勤し続けながら、症状を出しっぱなしにして、かぶれが数週間で乾燥し始め、収束。

© JPHMA &amp; NAO GALBRAITH

6

6

## 考察①



©JPHMA & NAO GALBRAITH

- 住んでいる地域にはアメリカツタウルシ、ポイズンオーク、ポイズンスーマック、など、ウルシ科の植物が多く生息しており、特に夏の草刈りや木々の間でウォーキングなどをすると、かぶれを起こす人が多い。最近職場の同僚の一人が庭仕事をした翌日に漆かぶれを起こして、市販のかぶれ用クリームで対応しようと試みたが一向に収まらず、二週間がたったころ全身に広がり始めてしまい、最終的には救急病院に駆け込みステロイド注射を打ってもらっていた。夫はその後幾度か、仕事場や自宅の庭でアメリカツタウルシに触れてぽつぽつができ始めた事があり、その都度レメディをとって対応しているが、かぶれの症状が特に広がることもなく、楽に収束していつている。

7

7



## ケース② 10才(当時)男児・次男 主訴：食物アレルギー

- 2024年2月25日のお昼から夕方までの出来事。日曜日に友達家族と一緒に昼食をとることになった。なじみのレストランで食事をしている途中で次男が突然腹痛を訴える。

©JPHMA & NAO GALBRAITH

8

8





## SWEET POTATO FRIES 犯人はスイートポテトフライ?!



- 揚げ物の衣にSoy Lecithin(ソイレシチン)という、大豆から抽出されたリン脂質でできた乳化剤・安定剤である食品添加物が使われていることが多い。
- 大豆の油は、大豆アレルギーは起こさないとされているが、次男はもっと小さい頃に大豆油で揚げたフライドポテトで口の周りが赤く荒れたことが何度もある。

© JPHMA &amp; NAO GALBRAITH

9

9



SOYBEAN

### The Big-8




## 日本とアメリカの 8大アレルギーの中に入る大豆

© JPHMA &amp; NAO GALBRAITH

10


10




**手法と経過②-1**

携帯していたレメディでレストランと帰途の車中で対応。次男と母親の私がAAAをとる。もしかして食中毒？それとも食物アレルギー？と思いARS. 30CとAPIS+S+Cの両方を与える。「吐きたいから」とIP. をリクエストした次男。IP. では吐けなかったがSULF. をとった後に吐き戻しに成功。車中で「喉がヒリヒリする」というのでARS. と APIS+S+Cをリピート、そしてCARB-V. を与える。また、鼻水が流れ出るといのでALL-C. とサポートNENMA. をとる。そしてIP. とSULF. リピートでまた車内でも吐き戻しができた。

© JPHMA & NAO GALBRAITH




**サポートAAA**




Ars.30C  
Apis+S+C.30C  
Ip.30C  
Sulf.30C  
Carb-v.30C


**サポートAAA**



**サポートNenma**



**All-c. 30C**



11

11

**手法と経過②-2**



**じんましん**





■ 帰宅してから現れた症状に対応するレメディも使った。家についてシャワーを浴びた次男。まだおなかが痛いと言っていたので、ARS. とCAR-V. とMAG-P. をとる。しばらくして蕁麻疹が発症してからAPIS.、URT-U.、HIS.、SABAD. をとると、症状が速やかに収束して事なきを得る。

**サポートAAA**



Ars.30C  
Carb-v.30C  
Mag-p.30C

**Apis.6C  
Urt-u.200C  
His.200C  
Sabad.30C**



12

12

## 考察②



- 次男は大豆アレルギーがあり、普段から食事には親も彼自身も気を付けているため、食物アレルギー反応を起こしたのは彼が幼児だった時以来で、気が抜けていたのかもしれない。もともとアレルギー対応をしてくれるために何度も利用したことのあるレストランだったし、その日は友人家族と一緒に久しぶりの外食で、彼らが、「おいしいから」と注文した品を、特に調べないまま彼も食べてしまった。この出来事がある、親も次男自身も、また気を引き締めて食べるものに気を付けている。また、レメディを携帯することの重要性の再確認ができた。レメディに感謝!!

マイクロキットと共に持ち歩いているレメディ。



©JPHMA & NAO GALBRAITH

13

13

## ご清聴ありがとうございました。



- Natural & Origin Welness. LLC.
- ガルブレイス奈央
- 連絡先：naowellness29@gmail.com



© JPHMA & NAO GALBRAITH

14

14